

風土記の丘の花だより²⁹⁴

今、そしてこれから見られる植物(2025年11月1日)

すっかり秋になりました。というよりも、涼しさを通り越して、初冬を思わせる寒さの朝もあります。園内のカキ、サクラ、ハゼノキなどの葉が色づき始めました。いい季節になりました。



秋が深まり、ツワブキが黄色い花を咲かせています。キクの仲間ですが、普段見かけるキクとは葉の形がずいぶん違います。大きくて、広くて、まるでフキの葉のようです。それにツヤがあるので「つやぶき」、それが転じてツワブキになったという説もあります。万葉植物園には写真のような一重咲きと八重咲きの両方が見られます。そろそろ咲き始めると思いますので、またご覧ください。一重咲きの中にも、花びらが細いの、広いの、長い、短いなどいろいろな個性の違う花が見られ興味深いです。



「何じゃこれ？」と思われるかも知れませんが、メリケンカルカヤの群生です。この写真は池の北にある安藤塚で撮ったものです。メリケンとは American のことで、小麦粉をメリケン粉と言ったようにメリケンカルカヤは「アメリカの刈萱」という意味の名前です。萱とは、萱葺き屋根に敷くススキなどのイネ科植物のことで、それを刈るので刈萱です。名前から分かるようにこれは北アメリカからやって来た外来植物です。あちこちでちょっと増えすぎえていますね。



トイレ前の広場の奥に新池と呼んでいる小さな池があります。生け垣から覗くとミゾソバの花がたくさん咲いているのが見えます。遠くからでは、白とピンク色が混じっただけにしか見えませんが、近くで見るとこんな花です。湿った所に群生するタデ科の草です。ソバもタデ科ですから、「溝のような湿った所に生えるソバ」という意味の名前を付けたのでしょう。去年までは万葉植物園でも見ることはできましたが、なぜか今年は出てきてくれませんでした。来年に期待しましょう。



秋と言えば、この花の香りを忘れてはなりませんね。キンモクセイの花です。風に乗ってどこからかに甘い香りが漂ってきます。私はこの香りで高校時代の文化祭を思い出します。皆さんはこの花の香りにどんな思い出がありますか？キンモクセイには雄株と雌株がありますが、日本に持ち込む時、香りの良い雄株だけにしたので、日本にはほとんど雄株しかなく、キンモクセイには実ができません。よく似ていて香りも良いのに実ができるのは、おそらくウスギモクセイという

木かも知れませんね。花の色は、ギンモクセイより濃く、キンモクセイより薄いです 松下